

五才児の音楽リズム



関 治 子

五才児の後期に、音楽リズムの領域で、どのようなことを経験し、実際にどのように行なったかを具体的に記してみたい。

1. 音楽リズムの基礎的なものを、どれだけ把握しているか。

○曲想の異なる、いろいろな種類の歌を歌う。

例 リズミカルな ニ長調 $2/4$ きかんしゃくん

たのしい感じの ニ長調 $2/4$ じどうしゃうんでん

歌詞の可愛い ヘ長調 $2/4$ キュービーちゃん

ハ長調 $2/4$ おおきなくまさん

表現のおもしろい ヘ長調 $4/4$ がいとうさん

発展し易い ト長調 $2/4$ かもつれっしや

きれいな感じの ニ長調 $2/4$ みかん

速度感のある ヘ長調 $2/4$ 消防自動車

題材の好きな ヘ長調 $4/4$ あか、あお、きいろ

コミカルなうまさのある ヘ長調 $2/4$ こぶたのプー

家庭や社会で知れているうた まつぼっくり、たきび、おは

なしゆびさんなど

「元気のよい感じ」「おもしろいブタさん」というようにして、その曲の曲想に合うように歌う。これは、五才になって、みんなと揃って歌えるようになってきているので、こうした曲想を把握する方向にもってきた。なお、基礎的な把握の中で、音の高低のはっきり歌えないものが、男児に三人ほどいる。

○みんなと一しょに歌うことと、グループで歌うこと、みんなの前で一人で歌うこと、これは、希望者から始まって、だんだんに音楽会のごっことして、一人ずつ歌うことが、全員できるようになっ

た。

○楽器では、五才とはいえ、やはりリズム楽器で、容易に扱えるもの（ハンドカスタ・すず・タンブリン）に多く接し、正しい扱い方で、合奏、分奏することが多い。トライアングル・シンバル・たいこ・擬音笛・木琴を加えてのリズム合奏は、ごく最後の時期に経験した。

○動きのリズムとしては、速度感・強弱感・拍子感これらを身につけるよう、和音や音楽に従って、くり返し経験し、下段図の形は、全員が身につけている。

これらのリズムのいろいろ組み合わせた「カスタカチカチ」の曲がある。2拍子・3拍子・4拍子であるが、皆がやれるようになっている。

2. どのように表現しているか。

表現するという中には、(1)実物を模倣して表現する。(2)友だちと一しょに同じ型を表現する。(3)創造的な表現をする。と解釈して、五才後期の特徴としてとくに、創造的な表現をすることを中心に記してみる。

○歌の歌詞を考えて、入れる。

例 「えんそく、えんそく、もうすぐね。どこでしよね。どこでしよね。」

〔上野の動物園〕はまりきゅうですな「おいもほりですよ」

The image shows musical notation for rhythmic patterns. On the left, there are four lines of notation in 4/4 time, each with a vertical bar line. The first three lines consist of eighth notes with stems and flags. The fourth line has eighth notes with stems and flags, followed by a quarter rest. On the right, there are three lines of notation in 2/4 time, each with a vertical bar line. The first two lines consist of eighth notes with stems and flags. The third line has eighth notes with stems and flags, followed by a quarter rest. Brackets connect the 4/4 patterns to the 2/4 patterns, and a larger bracket connects the 2/4 patterns to a final 2/4 pattern on the far right.

なって片膝立て、しゃがんで、両手を上にあげるポーズ。

また、これを「グループずつ順に皆の前でやってもらう。グループすむと、そのグループのまねをしないで、更に他の表現を考えようと努力している。みている間に、小声でさきやいて相談している時もある。子どもたちの協力と創造していく力に、おどろきと喜びを覚えて、胸がいっぱいになってしまう。

○動きだけでも、創作への活動をやっていった。形式は、一人ずつ自由自在に動きまわる場合、二人で組になって対話形式にしている場合、二人く五、六人のグループになる場合、また、少数対組全体の場合といろいろある。この最後の場合は、少数が相談してきめた大玉さん・クリーニングやさん・花屋さん・魚やさん・まつつき・なわとびなどの表現をして、みている人は、それをあてて、今度は自分たちが、そのテーマで表現を工夫してみる。このようなジュスチャーの形から入って、更に、テーマを自分の工夫によって、創造的なものを見出させていく。

創作的な方面では、選曲によって非常に結果が違ってくる。「シソー」 「なわとび」 「四羽の白鳥の踊り」など、一曲が同じ調子のもので、前述の「カッコワルツ」 「人形の夢とめざめ」 などリズムが捉え易く、曲想が二種類あるものが、たいへんに表現しやすく、いろいろな表現を生み出し易いと思う。

3. どのように受け入れているか。

子どもが、歌やリズムを、どのように聞いたり、感じたり、味わったりしているかということであるが、子どもたちは、自然な幼稚園生活の中で受け入れている。午後の体操の前にマイクから流れる曲、体操の後の行進の時の行進曲など、子どもは、それぞれに受けとめている。

例、リズムカルな曲……………ひざを軽く屈伸させてリズムをとる。

きれいな流れるような曲……………両手を休側に軽くあげ下に軽くゆらしている。

また、「おもしろい音楽ね」「今日のいい音楽ね」「何という音楽?」「きいたことある」などと感じとって、関心を示す。機会をうまく与えることが大切なようだ。

実際の幼児の活動状態を記すのに音なりリズム全体を網羅できず、ふれ方に片寄りがあると思う。私の筆では、とても及ばない。子どもたちの前向きな姿、躍動する力に、重点をおいたが、伸びる芽をつみとってしまわないようにと責任を再任した。